

TPPに参加するな 食料安全保障は国の基本

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定） への不参加を求める意見書

世界では食料争奪、農地争奪が起き、人間の生命に不可欠な食料の供給が世界的な危機に直面し、地球上では9億人が慢性的な貧困に陥っている。

わが国は瑞穂の国であり、国土の隅々にまで美しい農山漁村が展開し、領土が保全されている。農山漁村に住む人々が、伝統文化を守りながら、安全・安心な食料を供給している。これが、この国のかたちである。

政府は、11月9日に「包括的経済連携に関する基本方針」を閣議決定し、この中でTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)についての参加・不参加を先送りしたものの、「関係国との協議を開始する」と判断している。TPPは、関税撤廃の例外措置を認めない完全な貿易自由化を目指した交渉である。

工業製品の輸出拡大や資源の安全確保を否定するものではないが、しかし、わが国が貿易立国として発展してきた結果、世界でも最も開かれた農産物純輸入国となり、食料自給率は著しく低下した。

例外を認めないTPPを締結すれば、日本農業は壊滅的な打撃を被る。たとえ農家所得が補償されても、輸入は増大し国内生産は崩壊していく。

これでは、国民の圧倒的多数が望む食料自給率の向上は到底不可能であり、農林水産省の試算でも先進国中最低の40%から、さらに14%へと激減することになる。食品関連の輸送など広範な業種で雇用が失われ、地域経済も大打撃を被るものとなることは明らかである。

EPA（経済連携協定）は、交渉参加国の相互発展と繁栄を本来の目的とすべきである。わが国がTPPに参加しても、この目的は達成できない。したがって、わが国の食料安全保障と両立できないTPP交渉への参加には反対であり、断じて認めることはできない。

よって政府におかれては、TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)交渉へ参加しないよう強く要請する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年12月7日

愛知県武豊町議会 議長 小山茂三

町長 町議会

不参加を求める意見書を採択 国論を二分、判断する状況にない

菅総理が「平成の開国」と称して、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加をめざしていること

折しも、あいち知多農業協同組合（代表理事組合長 平野重良）から、「わが国の食料安全保障と両立できないTPP交渉への参加に反対であり、断じて認めることはできない」とする

日本共産党梶田進議員が提案説明。町民クラブ（2人）だけが反対しましたが、賛成多数で採択されました。

業関連団体をはじめ多くの消費者が、協議への参加を含めてTPPへの参加に反対しています。

「TPP交渉参加反対に関する緊急要望」が議会事務局へ届けられ、それを基に

「国論を二分する状況にあり、現時点での協議参加の是非を判断しうる状況にはない」と答弁。町議会が不参加を求める意見書を採択

なれば、食料自給率（現在40%）は14%に激減する

「TPP交渉参加反対に関する緊急要望」が議会事務局へ届けられ、それを基に

「国論を二分する状況にあり、現時点での協議参加の是非を判断しうる状況にはない」と答弁。町議会が不参加を求める意見書を採択

という試算もあり、私たちの

左欄の意見書が作成され、

呈しました。

なれば、食料自給率（現在40%）は14%に激減する

「TPP交渉参加反対に関する緊急要望」が議会事務局へ届けられ、それを基に

「国論を二分する状況にあり、現時点での協議参加の是非を判断しうる状況にはない」と答弁。町議会が不参加を求める意見書を採択

という試算もあり、私たちの

左欄の意見書が作成され、

呈しました。

尖閣諸島も千島列島も 日本固有の領土

尖閣諸島も千島列島も、日本の領土であることは歴史的にも明らかであると、中国政府にもロシア政府にも国連でも、国際社会に訴えて、はっきり主張している日本共産党です。

沖縄諸島の西方に位置する尖閣諸島は1884年、沖縄で茶・海産物業を営んでいた古賀辰四郎が初めて探検し、1895年1月の閣議決定で日本領（沖縄県）に編入されました。第2次大戦末期まで数百人が住み、かつお節の生産などが行われていました。

1895年から75年間は他国が日本の領有に異議を唱えたことはありません。

千島列島は、1855年に日口間で結ばれた「日魯通好条約」と1875年の「樺太・千島交換条約」で、平和的に日本領と確定した正当な領土であります。

しかし、第2次世界大戦の終結時、スターリンはヤルタ会談（1945年2月）で、ソ連の対日参戦の条件として千島列島の「引き渡し」を要求し、千島列島全体を併合したもので、領土不拡大という戦後処理の大原則を踏みにじったものです。

11月9日、志位委員長は「歴代自民政権の日口領土交渉方針の根本的再検討を」文書で、菅首相に申し入れました。

「しんぶん赤旗」を ぜひ、ご購入下さい 毎週発行する「読者ニュース」も好評です

ご購入いただいた読者のみなさんには、「しんぶん赤旗」に折り込んで、無料でお届けしています。町政の動き、議会でのできごとなど、身近な話題を毎号お届けし、たいへんご好評をいただいています。「読者ニュース」が楽しみだからとっている、という方もみえるくらいです。

日刊 月2900円
日曜版 月800円

「しんぶん赤旗」のお申し込みと生活相談などは

梶田 稔(72-3055) 梶田 進(72-3675) 小西幸男(72-3177)